

第3次美郷町読書推進計画

(令和3年度～令和7年度)

令和3年4月

美郷町教育委員会

目 次

はじめに	1 ページ
第一章 第2次推進計画における主な取組の成果と課題	2 ページ
第二章 第3次推進計画の基本方針	7 ページ
1 策定の目的	
2 計画の目標	
3 計画の期間と対象	
第三章 計画推進のための施策	8 ページ
1 基本的推進体制	
2 読書啓発活動や広報の推進	
3 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進	
定義、説明等	17 ページ
参考資料	19 ページ
子どもの読書活動の推進に関する法律	
衆議院文部科学委員会における附帯決議	
美郷町「読書100泉」	

はじめに

「読書離れ」が進行している現状では、子どもたちの言葉の表現力の伸びは弱まり、大人になってからも自ら考え、自分の言葉で表現することが困難になってしまうこと、さらには他者とのつながりに影響を与え、その後の人生をも左右するおそれがあることに私たちは危惧しなければなりません。

人生をより豊かに生活するために、読書によって、言葉を学び、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人を思いやる心を育み、「生きる力」となることが必要です。読書習慣を身につけることが、すべての学習の基礎となり、習慣の積み重ねが、ここに住む「人」を育て、それが将来にわたっての「町づくり」につながっていくものと考えます。

国は平成13年に子どもの読書活動の推進に関し基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにすることを目的とした「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行しました。また平成14年には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、その推進に努めています。

秋田県では令和3年度から令和7年度を計画期間とする「第3次秋田県読書活動推進計画」を定め、「生涯にわたって読書に親しみ、心豊かに」を基本目標として、各世代に応じた取組を展開することとしています。

また、美郷町では第2次美郷町総合計画行動計画（後期、平成30年度～令和3年度）の中で「ブックスタート事業」と「読書環境向上事業」を重点事業と位置づけ、読書活動を推進してきました。

そして、この度、すべての町民と一緒に読書の重要性を考え、何よりもその楽しさ、喜びを共に享受できるよう「第3次美郷町読書推進計画」を策定しました。この計画を通じて、関係機関、家庭、地域、学校等がそれぞれの領域と立場で読書活動の推進に努め、より一層の連携を深めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、本計画を策定するに当たり、ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

令和3年4月

美郷町教育委員会

第一章 第2次推進計画における主な取組の成果と課題

美郷町では、平成28年度から令和2年度までを計画期間とする第2次美郷町読書推進計画（第2次推進計画）に基づき、ボランティア団体、家庭、学校等と連携しながら、読書環境の整備に努めてきました。

本章では、第2次推進計画における主な取組を振り返るとともに、第3次美郷町読書推進計画（第3次推進計画）に向けた課題についてまとめます。

1. 基本的推進体制の整備

(1) 読み聞かせボランティア等の団体の育成とネットワーク構築

町内3地区の読み聞かせボランティアグループが参加する研修会（POPづくり、読書フェスタ、県等主催研修会参加）を行い、技術の向上を図ったほか、毎月のおはなし会についての広報周知を支援しました。

学校図書館の整理等を行っているPTAボランティアグループの活動日には、司書が参加して、図書整理、図書修理等へのアドバイスや協力を行いました。

(2) 美郷町読書支援センターの設置

司書が毎週、各学校図書館を訪問して、学校での読書相談に応じたほか、学校図書館の環境整備に協力しました。

また、県立六郷高等学校と図書館との間では、貸出カードを共通化して利便性や連携を深めました。

課題 ◆ 基本的推進体制を維持し、美郷町読書推進計画の目標に基づく読書活動を一層推進する必要があります。

2. 読書啓発活動や広報の推進

(1) ホームページの充実

簡単に蔵書検索や貸出予約ができる図書検索システムを町ホームページ上に掲載して、図書館利用促進を図りました。

(2) 「学友館だより」の掲載

毎月発行の「広報美郷」内の「学友館だより」や町公式 Facebook を活用して、新着図書や行事の情報を提供しました。

(3) 図書館や読書に親しんでもらえるコーナーの工夫、行事・講習等の企画

季節ごとにテーマを変えたコーナーづくりを行って、気軽に手に取ってもらえるよう図書展示（新書案内、読書の秋、スポーツ、学友館特別展関連、タイ交流、男女共同参画、バレンタインお菓子づくり等）を行いました。

(4) 子どもの夢を育む催し物や教室の開催

「手づくりしかけ絵本教室」を毎年開催して、親子で本に興味を持つことができる機会を提供しました。

(5) 「子どもの読書週間」や「読書週間」等にちなんだ図書館行事や本の展示

関心を持ってもらえるよう、読書週間にちなんだコーナーづくりを行いました。また、「読書フェスタ」を毎年開催して、図書館や本に親しんでもらう機会を提供しました。

課題 ◆ 読書啓発活動を充実させ、より多くの方が図書館を利用し、読書に親しんでいただく環境を整える必要があります。

3. 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進と整備

(1) 家庭

① 「えほんからはじめよう」（ブックスタート事業）の推進

町が行う乳児健診時に、赤ちゃんと保護者に絵本を手渡して、家庭の中に自然な形で絵本を取り入れてもらうことができました。また、町子育て支援担当や民生児童委員、読み聞かせボランティアグループも参加して、行政や地域が一体となって子育てを応援していることを伝えることができました。

② 読書活動に対して保護者の理解を得ることのできる情報の提供

おはなし会や図書館事業のお知らせ、おすすめ本の紹介等を、図書館、公民館等町内の施設に設置して、情報提供しました。

③ 家庭での読み聞かせにおすすめの本や親子で一緒に楽しめる本の紹介

紹介リーフレットを作成して、ブックスタートのスタートパックへの同梱や、図書館内の「えほんのへや」に設置し、紹介しました。

課題 ◆ 幼少期から親子で読書に親しむことは、その後の読書習慣の定着に有効であることから、関係機関と連携して引き続き行う必要があります。

(2) 図書館

① 資料やサービスの充実

水に関する本や郷土資料等美郷町らしい蔵書の収集に努めたほか、利用者のニーズに応えるため、リクエスト制度を採用し、蔵書の充実を図りました。

また、県と町内企業（ヤマダフーズ）の協力を得て、「食育関連本コーナー」を設置しました。

② 学校等との連携の強化

平成 29 年度より、小中学校に毎週、図書館司書が訪問して連携を深めました。また、こども園、放課後児童クラブへの団体貸出は、貸出・返却時の本の移動に協力することにより、回数が増加しました。

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
貸出回数	45 回	54 回	62 回
月平均	3.7 回	4.5 回	5.1 回

③ 図書館職員の資質の向上

年 1 回、県立図書館等で行われた研修に積極的に参加しました。

④ ボランティア団体との連携

読み聞かせボランティアグループによるこども園や学校等での読み聞かせ活動を積極的に行いました。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
活動回数	109 回	124 回	134 回	137 回	131 回

⑤ 「心に残った本の紹介コンクール」の開催

毎年、多くの応募があり、読書フェスタ時に表彰を行いました。

⑥ 図書館見学、図書館利用学習、インターンシップ等の受け入れ

積極的に受け入れ、図書館の必要性や運営、読書活動事業の理解を深めていただきました。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
受入件数	8 件	8 件	9 件	6 件	9 件
受入人数	146 人	259 人	227 人	90 人	287 人

課題 ◆ 学校・家庭・地域と連携して図書館機能を充実させ、読書活動の拠点として図書館をより多くの方に利用いただけるよう取組むとともに、新型コロナウイルス等感染症対策を行う必要があります。

(3) 学校

① 町内全ての小中学校で「学校図書館図書標準」を達成

小学校全てで学校図書館図書標準を達成し、中学校は未達成です。

令和3年2月1日現在

学校名	学級数	学校図書館図書標準蔵書冊数	各校蔵書冊数
仙南小学校	13	$7,960+400 \times (\text{学級数 } 13-12) = 8,360$ 冊	16,915 冊
千畑小学校	14	$7,960+400 \times (\text{学級数 } 14-12) = 8,760$ 冊	12,390 冊
六郷小学校	12	$5,080+480 \times (\text{学級数 } 12-6) = 7,960$ 冊	11,588 冊
美郷中学校	19	$13,600+320 \times (\text{学級数 } 19-18) = 13,920$ 冊	13,401 冊

② 読書に親しむ時間の確保、学校図書館の貸出冊数の増加

少子化及び学校での学習や行事等が繁忙になり、貸出冊数は減少しています。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
仙南小学校	3,670 冊	3,975 冊	3,221 冊	1,832 冊
千畑小学校	1,286 冊	1,483 冊	2,415 冊	1,304 冊
六郷小学校	1,131 冊	1,946 冊	2,356 冊	1,617 冊
美郷中学校	1,212 冊	1,221 冊	1,159 冊	791 冊

③ 学校図書館内の整備、展示の工夫

図書館司書や学校図書館ボランティアが、図書館内の環境整備や季節に応じた飾り付け等により、子どもたちが図書館に親しみ、利用機会を増やす工夫をしました。

④ 長時間にわたる学校図書館の開放

学校が開いている時間は随時利用できるよう開放しました。

⑤ 町立図書館と町内学校図書館との連携

授業等で参考となる図書の相談等を教職員から受ける体制を整え、図書館司書がアドバイス等を行ったほか、「調べ学習」に利用する本の団体貸出を行いました。

	令和元年度	令和2年度
貸出回数	8回	10回

⑥ 図書館の利用指導、授業での図書館活用

図書館見学や図書館利用学習を積極的に受け入れ、図書館の利用指導を行いました。

※実績は、第1章3-(2)-⑥参照

⑦ 読書指導の充実

美郷町読書 100 泉や読書指導に取り組みました。読書 100 泉の読破者は下記のとおりで、各校において達成者を表彰しました。また、令和 2 年度中に読書 100 泉を更新し、令和 3 年度から適用することとしました。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
3 小学校	92 人	53 人	59 人	44 人	48 人

(出典：美郷町教育委員会教育推進課)

⑧ ボランティアの活用

読み聞かせボランティアグループによる学校での読み聞かせ活動を積極的に行い、地域の人々と交流する機会を確保しました。

※実績は、第 1 章 3 - (2) - ④ 参照

⑨ こども園、放課後児童クラブでの本に親しむ環境の整備

図書館の団体貸出や読み聞かせボランティアによる読み聞かせを行い、本に親しみ、身近に本がある環境づくりを行いました。

⑩ 教職員の啓発

図書館司書が週 1 回の頻度で小中学校を訪問し、その際に教職員との相談や情報提供を行い、読書の必要性を啓発しました。

課題 ◆ 活動や家庭環境、余暇の過ごし方が多様化していますが、子どもたちが自発的に読書習慣を身につけられるよう、最も身近な読書施設である学校図書館へ親しみを持たせ、その機能を活用する取組を推進する必要があります。

第二章 第3次推進計画の基本方針

1. 策定の目的

国や県の動きを踏まえ、本町の実情を勘案して、町民一人ひとりが読書と向かい合うことの大切さ、楽しさを理解し、子どもの頃から読書習慣を身に付けるための環境整備と施策の展開を図ることを基本理念とする「第3次美郷町読書推進計画」を策定します。

2. 計画の目標

本計画の目的を達成するため、次の3つを施策の基本として、町民の読書活動を総合的に推進します。

(1) 基本的推進体制

町民の読書に対する意識を高め、主体的に読書と向き合ってもらうために、関係機関や団体、学校、ボランティア等と広く連携した読書環境づくりの体制推進に努めます。

(2) 読書啓発活動や広報の推進

町全体で読書の素晴らしさ、楽しさを共有できるよう読書についての理解や関心を高め、それを維持していくことのできる環境づくりを進めていきます。

(3) 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進

町民の読書活動を支えるために、家庭、図書館、学校においてそれぞれの立場から取組んでいくべき役割を追求し、その実行に努めます。

3. 計画の期間と対象

この計画の期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間とします。ただし、計画期中においても必要に応じて見直しを行い、記述内容の変更・修正ができるものとします。計画の対象は、子どもたちはもとより、すべての町民とします。

第三章 計画推進のための施策

1. 基本的推進体制

読書推進活動を展開していく上で、基本的な組織の設置や情報提供の拠点、関係機関や団体、学校、ボランティアの連携、読書環境整備の充実等が求められます。

そのため、次のような基本的推進体制の整備に努めます。

- (1) 読み聞かせボランティア等の団体の活動を支援し、構築した基本的体制の推進に努めます。また、団体の活動の周知を図ります。
- (2) 「美郷町読書支援センター」を運営し、機能を充実させます。

(1) 読み聞かせボランティア等の団体の育成とネットワーク構築

町内3地区で活動している読み聞かせボランティア団体や、学校図書館の整理を行っているPTAボランティアグループとの連携を維持し、美郷町読書推進計画の目標に基づく読書活動を一層推進します。あわせて、必要に応じて相互協力をを行うとともに、各団体の活動を広く町民に周知し、団体の維持と活性化を図ります。また、図書館において団体の活動の相談に応じ、読み聞かせ、ブックトーク、図書整理、図書修理等の研修の情報提供をします。

(2) 美郷町読書支援センターの運営

図書館内に「美郷町読書支援センター」を設置しており、県子ども読書支援センターとの連携を図り、必要に応じた指導を受けながら学校や地域における子どもの読書についての「情報センター的機能」を充実させます。

学校図書館へは毎週、図書館司書が訪問して学校での読書相談に応じるほか、学校図書館の環境整備に協力します。加えて、図書館と県立六郷高等学校の間では貸出カードの共通化を継続して行います。

大人からの高度な問合せや課題解決に対応するため、専門書等の幅広い資料の収集や他図書館との情報共有及び相互利用を行うとともに、図書館職員のスキルアップを図ります。

2. 読書啓発活動や広報の推進

読書活動を推進するためには、町民が読書に関心を持ち、自主的な読書活動を行うことが必要です。読書に関するより広範囲で新鮮な情報発信と読書活動の機会を提供するため、次のことを推進します。

- (1) 町ホームページ内の図書検索システムを広く周知して、図書館利用を促進します。
- (2) 「広報美郷」に図書館案内である「学友館だより」を掲載します。
- (3) 本や読書に親しんでもらえるようなコーナーの工夫、行事・講習会等を企画します。
- (4) 夏休みや冬休み等、学校の長期休み中に子どもの夢を育む催し物や教室を開催し、親子で図書館への関心を促す取組を行います。

(1) ホームページの充実

インターネットが普及した現代において、ホームページを使った情報収集は手軽に行うことができ、最も身近な手段の一つです。町図書検索システムの存在や使い方等を広く周知して、図書館利用を促進します。

(2) 「学友館だより」の掲載

【目標：広報美郷への掲載 月1回】

「広報美郷」内に図書館案内である「学友館だより」を掲載するほか、町公式 Facebook を活用して、新着図書案内や図書館・学校等における読書に関する取組や行事等の情報を随時提供します。

(3) 本や読書に親しんでもらえるようなコーナーの工夫、行事・講習会等の企画

【目標：コーナー展示や情報提供 年6回以上】

【目標：読書フェスタの開催 1回、満足度80%以上】

読書活動に対する理解や関心の普及を図るため、図書館内において読書週間など全国的な読書関連事業に関するテーマや季節に応じた図書コーナー、図書展示を行います。

また、読書フェスタ等のイベントを開催し、図書館や本に親しみ、読書活動への理解や関心を高める活動に取り組めます。



(4) 子どもの夢を育む催し物や教室の開催

【目標：小学校長期休み中のおはなし会の開催 1回以上】

【目標：手づくり絵本教室の開催 1回】

学校の長期休みを利用し、拡大版の「おはなしの会」や、「手づくり絵本教室」等本に親しむことのできる子ども向けの講座を企画し、子どもたちが自然に本や読書に興味を持つ機会を提供します。

3. 家庭、図書館、学校等における読書活動の推進

子どもたちの読書活動を支えていく上で、家庭、図書館、学校等においてそれぞれの立場から取り組んでいくべき役割があります。自然な読書習慣が身に付くよう、町全体で環境を整備し、充実させていく必要があります。また、そうした整備に取り組むことは、子どものみならず、大人も読書と向かい合う契機になると考えます。

そのため、各方面において次のような取組を推進します。

(1) 家庭における読書活動の推進

- ① ブックスタート事業を引き続き実施します。
- ② 保護者に対し、読書活動への理解と協力が得られるよう情報を提供します。
- ③ 家庭での読み聞かせにおすすめの本を紹介し、また、親子で一緒に楽しめる本の紹介等を行い、家庭で読書に親しむ運動を推進します。
- ④ 郷土愛を深め豊かな心を育む「美郷オリジナル絵本」を作成し、幼少期の読書活動の推進を図ります。

① ブックスタート事業の実施

【目標：ブックスタート事業の実施 年12回】

町が行う乳児健診の際に、乳児からの健やかな心の発達や親子のふれあいを目的として絵本を手渡すブックスタート事業を継続して行います。この事業により、絵本が自然な形で家庭の中に取り入れられ、乳児と家族が絵本を通じて楽しいひとときを過ごすことができ、無理なく読書習慣が身に付くものと考えます。



② 保護者に対する読書活動への理解と協力

子どもの成長過程において、読書に親しむことの重要性や家族で読書に親しむことの楽しさ、素晴らしさを伝えるために、図書館、保健センター等の公共施設や、子育て支援の催し会場に読書啓発の資料を設置し、情報提供に努めます。

また「おやこふらっと広場」では、こども園図書館の活用と美郷町住民活動センター内の活動スペースに設置される絵本の充実に努め、読書活動への理解と情報提供を推進します。

③ 家庭での読み聞かせにおすすめの本や親子で一緒に楽しめる本の紹介

ブックスタート事業を契機とした本とのふれあいが、乳児期だけで終わることなく、家庭内で本にふれる機会が継続されるように、子どもへの読み聞かせに薦めたい本や、親子で一緒に読んだり感想を話し合ったりできる本の紹介を行い、家庭内で読書時間を共有することの楽しさ、大切さを伝えていきます。

④ 郷土愛を深め豊かな心を育む「美郷オリジナル絵本」の作成

低年齢層（3～7歳）を対象とした、町への愛郷心や情操を育み、かつ幼少期から読書に親しむ機会を提供するため、美郷町オリジナルの絵本を作成し、こども園入園時等に配布します。

(2) 図書館における読書活動の推進

- ① 資料やサービスの充実を図ります。
- ② 学校等との連携を深めます。
- ③ 図書館職員の資質の向上を図ります。
- ④ ボランティア団体との連携を深めます。
- ⑤ 「心に残った本の紹介コンクール」を開催し、読書活動を啓発します。
- ⑥ 図書館見学、図書館利用学習、インターンシップ等の受け入れを促進します。
- ⑦ 感染症対策を実施し、安心安全に利用いただける環境を保ちます。

① 資料やサービスの充実

【目標：来館者数 年間 20,000 人以上】

【目標：貸出冊数 年間 35,000 冊以上】

図書館は、町民が自ら学び考え、より豊かな生活の実現を目指す生涯学習社会の基盤としての役割を担っています。また、町民にとって気軽に利用でき、たくさんの本と出会い、読書を楽しむことができる場として、読書活動の推進に大きな役割を担っています。

子どもたちにとって図書館は、多様な本と出会い、読書の楽しみを通じて人間性を育む場です。大人にとっては自ら学び考える機会となり、図書館で知りたい

ことを自主的に調べる「知ることの喜び」を感受することができます。

そのための基礎となる様々な資料やサービスの提供は図書館としての責務であり、図書館において、次のような資料やサービスの充実に努めます。

- ・地域性を生かし、利用者のニーズに合わせた資料の収集に努め、蔵書を充実させ、貸出冊数の増加を目指します。
- ・美郷町らしい蔵書を充実させるため、水に関する本、環境問題について考える本、乳幼児期からの読書推進に関する本（児童書、絵本等）、食育関連本、郷土資料の収集について心がけます。
- ・図書館事業やサービスの内容、蔵書についての情報等の周知を行い、来館者の増加に努めます。

② 学校等との連携の強化

【目標：図書館司書の派遣 小中学校各校週1回】

子どもたちにとって最も身近な本との出会いの場である「学校図書館」の充実のため、学校との連携を深め、図書館において次のような支援を進めていきます。

- ・読み聞かせやブックトーク、団体貸出の機会を増やすよう努めます。また、図書館の使い方や楽しみ方を学校に出向いて説明する機会を創出します。
- ・図書整理、授業での活用、図書展示の方法等学校図書館の運営について、PTAやボランティア団体の活動を支援します。
- ・こども園との連携を図り、読み聞かせや絵本の紹介をとおして、ブックスタート事業のアフターケアを充実させます。また、こども園への大型絵本や紙芝居の貸出冊数を増やし、図書館の積極的な利用を促します。
- ・児童や生徒の学習等で図書館を有効に活用できるよう学校へ働きかけます。
- ・放課後児童クラブへの図書の貸出、本の紹介、ボランティア団体等の協力による読み聞かせ活動の充実を図ります。
- ・県立六郷高等学校との連携を強化し、図書館運営等についての情報、意見交換を行うよう努めます。

③ 図書館職員の資質の向上

【目標：県立図書館等が主催する研修会等への参加】

図書館利用者の様々なニーズに対応するため、図書館職員が積極的に県立図書館等で行われる研修に参加し、知識・情報の共有が図られるよう努めます。

④ ボランティア団体との連携

図書館や学校での読み聞かせ活動や学校図書館の資料整理にはボランティアの協力が重要となってきます。読み聞かせボランティアや地域のボランティアコーディネートをを行うNPO法人「みさぼーと」との連携を一層深め、図書館、学校での活動を支援します。

⑤ 「心に残った本の紹介コンクール」の開催

町内小中学校、県立六郷高等学校へ作品を募集し、「心に残った本の紹介コンクール」を継続し、読書活動の啓発を促します。また、応募作品数をこれまでより増やしていくことを目指します。

⑥ 図書館見学、図書館利用学習、インターンシップ等の受け入れの促進

図書館見学や図書館を利用した授業、インターンシップ（職場体験）を積極的に受け入れ、充実した体験学習ができるよう体制を整えます。

⑦ 感染症対策を実施し、安心安全に利用いただける環境づくり

新型コロナウイルスのみならず、さまざまな感染症の感染予防に取り組むため館内を清潔に保ち、安心安全に利用いただける環境づくりを実施します。

(基本的取組)

- ・カウンターや閲覧席、検索機器等の消毒
- ・館内換気の徹底
- ・図書消毒機による書籍等の消毒

(令和3年4月現在 追加取組)

- ・マスクの着用
- ・入館者の連絡先確認
- ・ソーシャルディスタンス（閲覧席の間引き）

(感染拡大状況に応じた対応)

- ・利用時間の短縮、利用制限（貸出不可、閲覧不可等）
- ・臨時休館



令和2年度導入 図書消毒機

(3) 学校等における読書活動の推進

- ① 「学校図書館図書標準」の達成と活用に努めます。
- ② 読書に親しむ時間を確保し、学校図書館の貸出冊数の増加を目指します。
- ③ 学校図書館内の環境整備と、より親しみやすい展示の工夫等に努めます。
- ④ 子どもたちが疑問に思ったことをすぐに調べることができるように、学校図書館の開放に努めます。
- ⑤ 図書館と学校図書館の連携を図り、相互に補完できる体制を整えます。
- ⑥ 図書館の利用指導や、授業での図書館の活用により、子どもたちが図書館に足を運ぶ回数が増えるよう指導を行います。
- ⑦ 読書指導の充実に努めます。
- ⑧ ボランティアの活用に努めます。
- ⑨ こども園、小中学校、高等学校の各段階に加え、放課後児童クラブにおいても、本に親しむ環境整備に努めます。
- ⑩ 学校図書館運営や読書活動に対する教職員の理解や関心が高まるよう啓発していきます。

① 「学校図書館図書標準」の達成と活用

【目標：学校図書館図書標準の指標に基づく蔵書冊数達成と活用】

子どもたちにとって、最も身近な本との出会いの場は学校図書館です。そこには、すべての子どもが新しい世界を知り、新鮮な情報を手に入れることができるような本が揃っている基本的な体制が必要です。

小中学校において「学校図書館図書標準」の指標に基づく蔵書冊数の達成と活用に努めます。

② 読書に親しむ時間の確保、学校図書館の貸出冊数の増加

子どもたちは、授業や部活動、習い事等への時間の確保から、読書に親しむ時間は確保しづらくなってきています。落ち着いて読書を楽しむためには、学校生活の中で習慣として身につけることが重要です。そこで、読書の時間や読み聞かせ等を通じて全校で読書に親しむ時間を確保するよう努めます。また、そのことを契機として貸出冊数が増加するよう、学校図書館の利用を促していきます。

③ 学校図書館内の整備、展示の工夫

【目標：(再掲) 図書館司書の派遣 小中学校各校週1回】

子どもたちが図書館に親しみ、利用機会を増やすためには、書架が分類ごとに整理された状態で希望の本を探しやすいこと、図書展示により図書館にいただけで楽しくなるような工夫が為されていること等が必要です。そのため、学校図書館内の整備を行い、子どもたちの興味・関心をそそる図書展示やコーナーの設置に努めます。

④ 長時間にわたる学校図書館の開放

子どもたちが疑問に思ったことをすぐに調べ、読みたい本をいつでも手に取ることができるよう、決められた時間のみでなく、放課後も含めた長時間にわたって学校図書館を開放しておく必要があります。図書館でも、学校が開いている時間は随時利用できるよう開放に努めます。

⑤ 図書館と学校図書館との連携

授業で一斉に同じジャンルの本が必要になった場合や、限られた図書購入費では子どもたちのリクエストに応じきれない場合等、自校の図書館だけでは補いきれない状況に対応するため、図書館や他校の学校図書館と連携し、子どもたちの探究心に最大限応えていくよう努めます。

⑥ 図書館の利用指導、授業での図書館活用

図書館での本の探し方、調べものの進め方等正しい利用方法が分かれば、図書館で過ごす時間はより充実し、楽しいものになります。また、授業で図書館へ足を運ぶ回数が増えることで、図書館がますます身近なものになります。図書館の利用指導や授業での図書館の活用を積極的に進めます。

⑦ 読書指導の充実

こども園、小学校、中学校、高等学校の各段階において、読書習慣を身に付け、その成長段階に合った本を手にとることは、子どもたちの人格形成やコミュニケーション能力の育成、情報活用能力の向上に重要な役割を担います。町が子どもたちに読んでもらいたい本として選定した美郷町読書100選（泉）の活用や、学校等において推薦図書コーナーを設けて子どもたちの選書を手助けし、教職員が読書指導力を向上させるための研究や取組を行うことにより、図書館や本を利用した指導の充実に努めます。

⑧ ボランティアの活用

読み聞かせボランティア団体や「NPO法人みさぼーと」を活用することにより、充実した読み聞かせの時間を確保でき、行き届いた蔵書の整理を行うことができるものと考えます。また、ボランティアが学校で活動することで、子どもたちが地域の人々と交流する機会が増え、読書体験をより幅広いものにすることができると同時に、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える活動に取り組めます。

⑨ こども園、放課後児童クラブでの本に親しむ環境の整備

子どもの成長や興味・関心に応じた図書の充実を図るため、図書館の団体貸出の利用、読み聞かせボランティアの活用等を通して、乳幼児期から本に親しみ、身近に本がある環境づくりに努めます。

⑩ 教職員への啓発

教職員に対し、図書館運営やその活用が子どもたちの学習、成長に非常に重要であること、また、読書活動の必要性について意識を高めていくことはすべての環境整備の基礎になると言えます。学校図書館運営や読書活動に対する教職員の理解や関心が高まるよう情報提供を行い、啓発していきます。

【定義】

図書館＝美郷町立図書館

司書＝美郷町立図書館に所属する司書

学校図書館＝美郷町立小中学校の校内に設置されている図書館（室）

小学校、中学校＝美郷町立の各小学校、中学校

【説明】

●ブックトーク

一定のテーマを立てて一定時間内に何冊かの本を紹介する手法のこと。読み聞かせや朗読とは異なり、本を最初から順に読んでいくのではなく、その本の面白さを伝え、その本を読んでみたいという気持ちを起こさせるもの。

●えほんからはじめよう（ブックスタート事業）

町で行う乳児健診の際、赤ちゃんと保護者に、絵本・子育て支援のお知らせ・おはなし会の案内・図書館利用申込書等が入ったパックを手渡し、絵本を開いて赤ちゃんと家族があたたかい時間を共有することの大切さを伝える事業のこと。また、民生児童委員や読み聞かせグループ等のボランティアも参加することで、地域と行政が一体となって子育てを応援していることも伝えている。

●おやこふらっと広場

未就学児等に遊びの場を提供する事業。これまでは、美郷町立認定こども園各園において平日に実施していた。令和3年度、事業を拡充し、第1土曜は仙南すこやか園、第2土曜は六郷わくわく園、第3土曜は千畑なかよし園、第4土曜に美郷町住民活動センターで新たに開催する。

●学校図書館図書標準

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に現在の

文部科学省が定めたもの。

小学校		中学校	
学級数	蔵書冊数	学級数	蔵書冊数
1	2,400冊	1～2	4,800冊
2	3,000冊	3～6	4,800+640×(学級数-2)冊
3～6	3,000+520×(学級数-2)冊	7～12	7,360+560×(学級数-6)冊
7～12	5,080+480×(学級数-6)冊	13～18	10,720+480×(学級数-12)冊
13～18	7,960+400×(学級数-2)冊	19～30	13,600+320×(学級数-18)冊
19～30	10,360+200×(学級数-2)冊	31～	17,440+160×(学級数-30)冊
31～	12,760+120×(学級数-2)冊		

●全国的な読書関連事業

①子どもの読書週間（4月23日～5月12日）

1959年に始まり、もともとは5月1日～14日の2週間であったが、2000年の「子ども読書年」を機に読書推進の機運が高まり、現在の4月23日～5月12日に延長された。

②読書週間（10月27日～11月9日）

10月27日～11月9日の2週間。昭和22年、「読書の力によって、平和な文化国家をつくろう」という決意のもとに始まり、国民的な行事として広がりつつある。

③子ども読書の日（4月23日）

2001年12月に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」により4月23日を「子ども読書の日」と定めた。

④文字・活字文化の日（10月27日）

2005年7月に施行された「文字・活字文化振興法」により、読書週間の初日にあたる10月27日を「文字・活字文化の日」と定めた。

【第3次推進計画の各取組の年次目標一覧】

目標	単位	令和2年度 (実績)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学友館だよりの掲載	回	12	12	12	12	12	12
コーナー展示や情報提供	回以上	6	6	6	6	6	6
読書フェスタ開催	回	1	1	1	1	1	1
	%以上	82.1	満足度80	満足度80	満足度80	満足度80	満足度80
小学校長期休み中のおはなし会開催	回	1	1	1	1	1	1
手づくり絵本教室開催	回	1	1	1	1	1	1
ブックスタート事業の実施	回	12	12	12	12	12	12
図書館来館者	人以上	15,615	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
図書館貸出冊数	冊以上	34,674	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000
図書館司書の派遣	回	週1 各小中学校	週1 各小中学校	週1 各小中学校	週1 各小中学校	週1 各小中学校	週1 各小中学校
県立図書館等主催研修会への参加	—	なし (中止)	随時	随時	随時	随時	随時
学校図書館図書標準の達成	—	学級数に応じて指標冊数が異なるため、学校毎に毎年度末に評価する					

参 考 资 料

○ 子どもの読書活動の推進に関する法律

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県

における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

平成13年12月12日公布・施行

○ 衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

- 一 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。
- 二 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。
- 三 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。
- 四 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。
- 五 子どもへの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。
- 六 国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

美郷町「読書100泉（小学校下学年部門）」

NO	書名	著者	出版社
1	アナグマのもちりパーティー	ハーウィン・オラム	評論社
2	あめじょあじょあ	イ・ミエ	光村教育図書
3	あらしのよるに	木村裕一	講談社
4	いとしの犬ハチ	いもとようこ	講談社
5	いなかのネズミとまちのネズミ	イソップ物語	岩崎書店
6	うんこ日記	村中季衣	BL出版
7	エルマーのぼうけん	ルース・スタイルス・ガネット	福音館書店
8	王さまと九にんのきょうだい	中国の民話	岩波書店
9	おかあさんの紙びな	長崎源之助	岩崎書店
10	おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん	長谷川義史	BL出版
11	おじいちゃんのごらくごらく	西本鶏介	鈴木出版
12	おしゃべりなたまごやき	寺村輝夫	福音館書店
13	お月さまって どんなあじ？	マイケル＝グレイニエツ	セーラー出版
14	おにたのぼうし	あまんきみこ	ポプラ社
15	おぼけのはなし(1)	寺村輝夫	あかね書房
16	おまえうまそうだな	西宮達也	ポプラ社
17	かあさんどうして	谷川俊太郎	佼成出版社
18	かいじゅうたちのいるところ	モーリス・センダック	富山房
19	かさじぞう	瀬田貞二	福音館書店
20	かたあしだちょうのエルフ	おのきかく	ポプラ社
21	かちかちやま	いもとようこ	金の星社
22	かわ	加古里子	福音館書店
23	かわいそうなぞう	つちやゆきお	金の星社
24	がんばれ義足のキリンたいよう	国松俊英	ポプラ社
25	きいろいばけつ	もりやまみやこ	あかね書房
26	吉四六さん	寺村輝夫	あかね書房
27	きつねのかぎや かいぞくおたから	三田村信行	あかね書房
28	きつねのでんわボックス	戸田和代	金の星社
29	教科書にでてくる生きものをくらべよう①	今泉忠明	学研プラス
30	教室はまちがうところだ	蒔田晋治	子どもの未来社
31	くまの子ウーフ	神沢利子	ポプラ社
32	クマよ	星野道夫	福音館書店
33	ぐりとぐら	なかがわりえこ	福音館書店
34	けんかのきもち	柴田愛子	ポプラ社
35	子うさぎましろのお話	ささきたづ	ポプラ社
36	こぎつねコンとこだぬきボン	松野正子	童心社
37	ことばのこぼこ	和田誠	瑞雲社
38	こねこのタケシ 南極大ぼうけん	阿見みどり	銀の鈴社
39	こびとのくつや	グリム童話	金の星社
40	こぶとりじいさん	いもとようこ	金の星社
41	三びきのやぎのらがらどん	北欧民話	福音館書店
42	さんまいのおふだ	千葉幹夫	小学館
43	じごくのそうべえ	田島征彦	童心社
44	しずくのぼうけん	マリア・テルリコフスカ	福音館書店
45	しっぽのはたらき	川田健	福音館書店
46	じぶんだけのいろ	レオ＝レオニ	好学社
47	11びきのねこ	馬場のぼる	こぐま社
48	しゅくだい	いもとようこ	岩崎書店
49	じゅげむ	川端誠	クレヨンハウス
50	しろいうさぎとくろいうさぎ	ガーズ・ウィリアムズ	福音館書店

美郷町「読書100泉（小学校下学年部門）」

NO	書名	著者	出版社
51	スーホの白い馬	大塚勇三	福音館書店
52	すき	谷川俊太郎	理論社
53	すてきな三にんぐみ	トミー＝アンゲラー	偕成社
54	すみっこのおぼけ	武田美保	ポプラ社
55	だいじょうぶ だいじょうぶ	いとうひろし	講談社
56	たんぼぼ	甲斐信枝	金の星社
57	ちいさなくれよん	篠塚かおり	金の星社
58	ちからたろう	いまえよしとも	ポプラ社
59	月のみはりばん	とりごえまり	偕成社
60	てぶくろ	ウクライナ民話	福音館書店
61	手ぶくろを買いに	新美南吉	偕成社
62	でんでんむしのかなしみ	新美南吉	大日本図書
63	どうぞのいす	香山美子	ひさかたチャイルド
64	どうぶつはいくあそび	きしだえりこ	のら書店
65	どきん	谷川俊太郎	理論社
66	としょかんライオン	ヌードセン・ホークス	岩崎書店
67	となりのせきのますだくん	武田美保	ポプラ社
68	ともだち	谷川俊太郎	玉川大学出版部
69	ともだちや	内田燐太郎	偕成社
70	どろんこハリー	ジーン・ジオン	福音館書店
71	ないた赤おに	浜田広介	金の星社
72	なつペンギン	塩野米松	ひかりのくに
73	にじいろの しまりま	こやま峰子	金の星社
74	にんきものひけつ	森絵都	童心社
75	ねずみくんのチョコキ	なかえよしを	ポプラ社
76	ねずみのよめいり	いもとようこ	金の星社
77	のうさぎ にげろ	伊藤政顕	新日本出版
78	のはらうた①	工藤直子	童話屋
79	八郎	斎藤隆介	福音館書店
80	はれときどきぶた	矢玉四郎	岩崎書店
81	100万回生きたねこ	佐野洋子	講談社
82	びんぼうがみとふくのかみ	富安陽子	小学館
83	ふしぎなかぎばあさん	手島悠介	岩崎書店
84	ふしぎなキャンディーやさん	みやにしたつや	金の星社
85	ふたりはともだち	アーノルド・ローベル	文化出版局
86	フランダーズの犬	ウィーダ	金の星社
87	ブレーメンのおんがくたい	グリム童話	福音館書店
88	フレデリック	レオ・レオニー	好学社
89	ぼくにげちやうよ	マーガレット・ワイズ・ブラウン	ほるぷ出版
90	ますだくんの1ねんせい日記	武田美保	ポプラ社
91	マッチウりの少女	アンデルセン	金の星社
92	みずくさむらとみずべむら	カズコ・G ストーン	福音館書店
93	めつきらもつきらどおんどん	長谷川摂子	福音館書店
94	森の水はうたうよ はじめはポツン！	かみやしん	岩崎書店
95	やまんばのにしき	まつたにみよこ	ポプラ社
96	雪の女王	ハンス・クリスチャン・アンデルセン	ほるぷ出版
97	よかったねネッドくん	レミー・シーリップ	偕成社
98	わしといたずらキルディーン	マリー女王	春風社
99	わすれられないおくりもの	S. パーレイ	評論社
100	わたし	谷川俊太郎	福音館書店

美郷町「読書100泉（小学校上学年部門）」

No.	書名	著者	出版社
1	あきらめないこと、それが冒険だ	野口健	学研
2	あしながおじさん	ジーン・ウェブスター	講談社
3	ありがとう	サトウハチロー	日本図書センター
4	いっしょにいけるって、なに？	オスカー＝ブルニフィエ	朝日出版社
5	いっぽんの鉛筆のむこうに	谷川 俊太郎	福音館書店
6	いのちのふるさと水田稲作	岡部伊都ほか	ジャパンプレス・フォト
7	ウエズレーの国	ポール＝フライシマン	あすなろ書房
8	宇宙人のしゅくだい	小松左京	青い鳥文庫
9	エーミールと探偵たち	エーリヒ＝クストナー	岩波書店
10	絵で読む広島原爆	那須正幹	福音館書店
11	江戸の笑い	興津 要	講談社
12	絵本星の王子さま	サン・テグジュペリ	集英社
13	大きな森の小さな家	ローラ＝インガルス＝ワイルダー	福音館書店
14	大草原の小さな家	ワイルダー	福音館書店
15	大どろぼうホッツェンプロッツ	プロイスラー	偕成社
16	小倉百人一首	田辺聖子	ポプラ社
17	おじいちゃんは水のにおいがした	今森光彦	偕成社
18	オズの魔法使い	バウム	福音館書店
19	おとぎ草子・山椒大夫	清水 義範・おじめ 正一	講談社
20	かくれ山の冒険	富安陽子	PHP研究所
21	片耳の大シカ	椋鳩十	偕成社
22	金子みすゞ童謡集わたしと小鳥とすずと	金子みすゞ	JURA 出版
23	カモメに飛ぶことを教えた猫	ルイス＝セプルベダ	白水社
24	ガラスのうさぎ	高木敏子	金の星社
25	ガリバー旅行記	スウィフト	講談社
26	川	前川かずお	こぐま社
27	がんばれ！盲導犬サーブ	手島悠介	講談社
28	きまぐれロボット	星 新一	角川書店
29	キャプテンはつらいぜ	後藤竜二	講談社
30	ギリシア神話	アポロドーロス ほか	講談社
31	蜘蛛の糸・杜子春	芥川龍之介	講談社
32	クリスマス・キャロル	ディケンズ	岩波書店
33	車いすの犬チャンプ	池田まき子	ハート出版
34	車の色は空の色	あまんきみこ	ポプラ社
35	賢者の贈り物	オー・ヘンリー	富山房
36	ここからどこかへ	谷川俊太郎	角川学芸出版
37	子どものすきな神さま	新美南吉	小峰書店
38	ことりをすきになった山	エリック・カール/アリス・マクラーレン	偕成社
39	ことわざ絵本	五味 太郎	岩崎書店
40	西遊記1	斉藤洋	理論社
41	ざんねんないきもの事典	今泉忠明・丸山貴文	高橋書店
42	シートン動物記おおかみ王ロボ	アーネスト・T・シートン	童心社
43	しかられた神さま	川崎 洋	理論社
44	シャーロック＝ホームズ①	アーサー・コナン・ドイル	岩崎書店
45	シャーロットのおくりもの	E.B.ホワイト	あすなろ書房
46	十五少年漂流記	ジュール＝ヴェルヌ	講談社
47	地雷ではなく花をください	柳瀬房子	自由国民社
48	しらんぷり	梅田俊作ほか	ポプラ社
49	新ちゃんがないた！	佐藤 州男	文研出版
50	星座を見つけよう	H.A.レイ	福音館書店

美郷町「読書100泉（小学校上学年部門）」

NO	書名	著者	出版社
51	そのこ	谷川俊太郎	晶文社
52	それいけズッコケ三人組	那須正幹	ポプラ社
53	ダーウインのミズの研究	新妻 昭夫	福音館書店
54	太陽の子	灰谷 健次郎	理論社
55	宝島	R. L. スティーブンスン	福音館書店
56	だれも知らない小さな国	佐藤 さとる	講談社
57	注文の多い料理店	宮沢賢治	岩崎書店
58	長くつ下のピッピ	アストリッド＝リンダグレン	岩波書店
59	チョコレート工場の秘密	ロアルド＝ダール	評論社
60	チョコレート戦争	大石真	理論社
61	天動説の絵本	安野光雄	福音館書店
62	トム・ソーヤの冒険	マーク・トウェイン	福音館書店
63	ドリトル先生アフリカゆき	ヒュー・ロフティング	岩波書店
64	西の魔女が死んだ	梨木香歩	新潮社
65	日本の神話	伊東利和	幻冬舎
66	人間になりたがった猫	ロイド＝アリグザンダー	評論社
67	ハイジ	J.シュペーリ	福音館書店
68	バッテリー①	あさのあつこ	教育画劇
69	葉っぱのフレディ	レオ・バスカリア	童話社
70	ハリーポッターと賢者の石	J・K・ローリング	静山社
71	悲劇の少女アンネ	シュナーベル	偕成社
72	ピリカ おかあさんへの旅	越智典子	福音館書店
73	ファーブル昆虫記ふしぎなスカラバ	アンリ・ファーブル 奥本大三郎	集英社
74	不思議の国のアリス	ルイス・キャロル	福音館書店
75	不自由な手でだきしめて母になった高崎山のサル「サヤカ」	島田和子	佼成出版
76	ふたり★おなじ星のうえで	谷川俊太郎	東京書籍
77	ふたりのイーダ	松谷 みよ子	講談社
78	フングリコングリ	岡田 淳	偕成社
79	ヘレン・ケラー	砂田弘	ポプラ社
80	ペロ出しチョンマ	齊藤隆介	理論社
81	冒険者たち	斉藤 惇夫	岩波書店
82	ぼくらの七日間戦争	宗田 理	角川書店
83	ほしにむすばれて	谷川俊太郎	文研出版
84	ホビットの冒険	トールキン	岩波書店
85	まるむし帳	さくら ももこ	集英社
86	見えなくてもだいじょうぶ？	フランツ＝ヨーゼフ＝ファイニク	あかね書房
87	水はめぐるもしも地球がひとの井戸だったら	ロジェール・ストラウス	汐文社
88	水を食べる！	足立己幸	大日本図書
89	モモ	ミヒヤエル＝エンゲ	岩波書店
90	森は呼んでいる	及川 和男	岩崎書店
91	森へ	星野道夫	復音館書店
92	森を育てる生きものたち雑木林の絵本	谷本雄治	岩崎書店
93	夕日がせなかをおしてくる	阪田 寛夫	岩崎書店
94	ゆりかごは口の中	桜井 淳史	ポプラ社
95	読みがたり秋田むかし話	秋田県国語研究会	日本標準
96	ライオンと魔女	C.S.ルイス	岩波書店
97	ルドルフとイッパイアッテナ	斉藤洋	講談社
98	若草物語	オルコット	福音館書店
99	吾輩は猫である	夏目漱石	講談社
100	わたしのいもうと	松谷みよこ	偕成社

美郷町「読書100泉（中学校部門）」

No.	書名	著者	出版社
1	赤毛のアン	モンゴメリ	ポプラ社
2	明日の水は大丈夫？バケツ一杯で考える「水の授業」	橋本淳司	技術評論社
3	あなたはそこに	谷川俊太郎	マガジンハウス
4	あのころはフリードリヒがいた	リヒター	岩波書店
5	アメリカひじき・火垂るの墓	野坂昭如	新潮文庫
6	アンネの日記	アンネ・フランク	文藝春秋社
7	生きること学ぶこと	広中平祐	集英社
8	生きるわたしたちの思い	谷川俊太郎	角川マガジズ
9	伊豆の踊子	川端康成	新潮文庫
10	いちご同盟	三田誠広	集英社
11	一瞬の風になれ	佐藤多佳子	講談社
12	一色一生	志村ふくみ	講談社
13	生命(いのち)の樹	江崎雪子	ポプラ社
14	いのちわたし、画学生さんのぶんまで生きる	窪島誠一郎	アリス館
15	いのちをはぐくむ農と食	小泉武夫	岩波書店
16	宇宙からの贈りもの	毛利衛	岩波書店
17	黄金の羅針盤上・下	ブルマン	新潮社
18	おちくぼ姫	田辺聖子	角川書店
19	大人になるヒント	中沢けい	メディアパル
20	鬼の橋	伊藤遊	福音館書店
21	お江戸風流さんぼ道	杉浦日向子	小学館
22	お米は生きている自然と人間	富山和子	講談社
23	解剖学教室へようこそ	養老孟司	筑摩書房
24	科学の目科学のこころ	長谷川眞理子	岩波書店
25	かぎりなくやさしい花々	星野富弘	偕成社
26	楽隊のうさぎ	中沢けい	新潮社
27	風が強く吹いている	三浦しをん	新潮社
28	カラフル(フォア文庫)	森絵都	理論社
29	漢詩入門	一海知義	岩波書店
30	きいちゃん	山元加津子	アリス館
31	機関車先生	伊集院静	文藝春秋
32	キッチン	吉本ばなな	新潮社
33	君たちはどう生きるか	吉野源三郎	ポプラ社
34	きみの友だち	重松清	新潮社
35	きよしこ	重松清	新潮文庫
36	銀河鉄道の夜	宮沢賢治	講談社
37	行為の意味	宮澤章二	ごま書房新社
38	高円寺純情商店街	ねじめ正一	新潮社
39	こころの処方箋	河合隼雄	新潮社
40	国境なき医師団 貫戸朋子	NHK「課外授業ようこそ先輩」製作グループ編	KTC中央出版
41	子どもたちの遺言	谷川俊太郎	佼成出版社
42	今昔物語	川崎大治	童心社
43	最後のひと葉	オー・ヘンリー	偕成社
44	さがしもの	角田光代	新潮文庫
45	さびしいときは心のかげです	原田大介・山元加津子	樹心社
46	さぶ	山本周五郎	新潮文庫
47	山椒魚しびれ池のカモ	井伏鱒二	岩波書店
48	潮騒	三島由紀夫	新潮文庫
49	詩人と絵描き子ども・絵本・人生をかたる	谷川俊太郎	講談社
50	下町ロケット①	池井戸潤	小学館

美郷町「読書100泉（中学校部門）」

NO	書名	著者	出版社
51	「自分の木」の下で	大江健三郎	朝日新聞出版
52	しゃばけ	畠中恵	新潮社
53	車輪の下	ヘッセ	偕成社
54	15歳の残像	江國香織	新潮社
55	14歳の君へどう考えどう生きるか	池田晶子	毎日新聞社
56	ショート・ショートセレクション①	星 新一	理論社
57	職人	永六輔	岩波書店
58	しろばんば	井上靖	講談社
59	深夜特急(①～⑥)	沢木耕太郎	新潮社
60	すいかの匂い	江國香織	新潮社
61	杉原千畝物語 命のビザをありがとう	杉原幸子	金の星社
62	精霊の守り人	上橋菜穂子	偕成社
63	ゾウの時間ネズミの時間	本川達雄	中央公論新社
64	そこに僕はいた	辻仁成	新潮社
65	ダイブ①	森絵都	講談社
66	谷川俊太郎詩集	谷川俊太郎	思潮社
67	小さな町の風景	杉みき子	偕成社
68	ちいさな労働者	フリードマン	あすなる書房
69	地球環境読本 I	加藤尚武	丸善出版
70	父の詫び状	向田邦子	文藝春秋
71	中学生からの作文技術	本多勝一	朝日新聞出版
72	チュウガクセイのキモチ	あさのあつこ	小学館
73	沈黙の春	レイチェル・カーソン	新潮社
74	ツナグ①	辻村深月	新潮文庫
75	都会のトム&ソーヤ①	はやみねかおる	講談社
76	夏の庭	湯木香樹実	徳間書店
77	ネコはどうしてわがままか	日高敏隆	新潮社
78	野菊の墓	伊藤左千夫	新潮文庫
79	ハードル	青木和雄	金の星社
80	博士の愛した数式	小川洋子	新潮社
81	走れメロス	太宰治	ポプラ社
82	ハッピーバースデー	青木和雄	金の星社
83	鼻・杜子春	芥川龍之介	金の星社
84	花とときどき風	永田萌	東京書籍
85	春の数え方	日高敏隆	埼玉福祉会
86	琵琶湖のカルテ科学者たちからのメッセージ	今関信子	文研出版
87	ブレイブ・ストーリー(①～④)	宮部みゆき	角川書店
88	ボクの学校は山と川	矢口高雄	白水社
89	ポケット詩集(①～③)	田中和雄編	童話屋
90	星野道夫の仕事①カリブーの旅	星野道夫	朝日新聞出版
91	マザー・テレサかぎりない愛の奉仕	沖守弘	くもん出版
92	祭りの場・ギヤマンビードロ	林京子	講談社
93	水と緑と土伝統を捨てた社会の行方	富山和子	中央公論新社
94	水の名前	内山りゆう	平凡社
95	森は生きている	富山和子	講談社
96	指輪物語①	J・R・R・トールキン	評論社
97	夜のピクニック	恩田陸	新潮社
98	漁師さんの森づくり森は海の恋人	畠山重篤	講談社
99	レ・ミゼラブル(上・下)	ユーゴー	岩波書店
100	わたしを束ねないで	新川和江	童話屋



第3次美郷町読書推進計画

発行 令和3年4月
美郷町教育委員会

編集 美郷町教育委員会
生涯学習課歴史文化財班（美郷町学友館内）
〒019-1404
秋田県仙北郡美郷町六郷字安楽寺122番地
TEL 0187-84-4040 FAX 0187-84-3763